

平成30年度取組状況

ものづくり工学科 一般科目 教授 河野有時

取組状況	
教育	<p>第1学年の現代文においては言語への関心を高め、基礎学力としての読解力の育成につとめた。第1学年の古典では古文、漢文を理解するための基礎的な言葉の意味や文法事項を理解することに力点を置き指導した。第4学年日本語表現法及び日本語演習では、進路を見据え、就職や進学を意識した実践的な演習を行った。課題研究では「ジャパニーズホラーの研究」と題して、邦画とそのリメイク作品を比較しての考察を行った。</p> <p>専攻科の日本語表現では演習に視聴覚機材を用い、自分がプレゼンテーションをしている姿を自分自身で確かめることによって、より具体的に課題を発見し、解決できるように努めた。</p>
研究	<p>雑誌「明星」から「スバル」への移行期に着目し、その短歌史的位置について考察を加えた。「スバル」が3回刊行した短歌号は多くの投稿者を巻き込みながら、その「スバル」自身の推力となっているが、それは終焉に向かいつつある「明星」の姿勢と関連していた。「スバル」の投稿歌には、座談平語と難じられたような歌が多く見られるが、然るがゆえに、ともすると日常感覚に触れようとすることがあったと言い得る。つまり、倍率を緩めて見れば、座談平語の歌は、自然主義と近代短歌という大きな流れのなかの流脈の一筋であり、ときに渦をなして、多様な交流を実現していたということを明らかにした。</p>
社会貢献	<p>「理系中学生のための国語講座」と題した公開講座を実施し、中学生を対象に国語の楽しみ方を講義した。講座の最後には、実際の過去問を解いてみるなどことも行った。</p> <p>シーズ集にも、社会貢献のひとつとして相談に応じられる分野を掲載している。</p>